

経営改善に取り組む花き経営体の育成

～継続可能な経営に向けて～

1 活動のねらい

千葉地域には花壇苗（パンジー、ペチュニア、プリムラ等）や鉢物（シクラメン、カーネーション、観葉植物等）の大規模農業者が点在しています。しかし、コロナ禍による行動制限もあり、これまで農業者同士の交流は少なくなっていました。

そこで、花きの現地検討会をとおして、ほ場での技術研さんや経営に関する情報交換を行い、地域花き農業者の交流の活発化による情報収集能力の向上、栽培管理技術及び経営管理能力の向上を図ることにしました。

また、夏季の高温により出荷の遅れやロスが発生している経営体があることから、簡易ミスト発生装置の展示ほを設置し、その効果を生産者へ周知することにしました。

2 課題の背景

花きの需要は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、催事や店舗での需要が減少し、他方で観葉や花壇苗等の個人需要が増加しました。新型コロナウイルス感染症が第5類感染症へ移行し、コロナ禍前の状況に戻りつつありますが、燃油や肥料等の資材価格高騰や、雇用労賃の引上げにより生産コストが増加し、利益が減少しています。さらに、近年の温暖化の影響から、夏季の高温が出荷の遅れやロスにつながる等、気象による課題もあり、花き経営の継続は難しくなっています。

3 普及活動の経過・結果

(1) 千葉地域花き現地検討会の開催

8月30日に農業者のほ場で労働力確保をテーマに花き現地検討会を開催しました。始めに、農業事務所から県の労働力確保に関する支援や短期労働力確保の手段、セーフティーネットについて情報提供をしました。次に雇用の状況や栽培管理等について情報交換を行いました。お互いの生産環境や考えを情報交換することで、お互いに刺激を受け、経営者としての意識が更に高まりました。また、コロナ禍の影響で疎遠になっていた農業者同士が再び繋がる機会となりました。



写真1 現地検討会の様子

(2) 簡易ミストによる暑熱効果の確認

7月28日から9月30日まで、簡易ミストの暑熱効果を確認するため、農業者の花壇苗ほ場に展示ほを設置しました。ミストを設置した区は、慣行区と比較すると気温が35℃以上になる回数が少なく、8月中のミスト稼働時間帯(8時から17時30分)の平均気温が約1℃低くなりました。その結果、例年みられる高温障害もなく、健全な花壇苗を栽培することができました。

8月には現地検討会を開催し、千葉地域の農業者へ展示ほを公開しました。さらに後日、温湿度データや生育の過程について情報提供した結果、農業者の暑熱対策に取り組む意識が高まりました。



写真2 設置した簡易ミスト装置

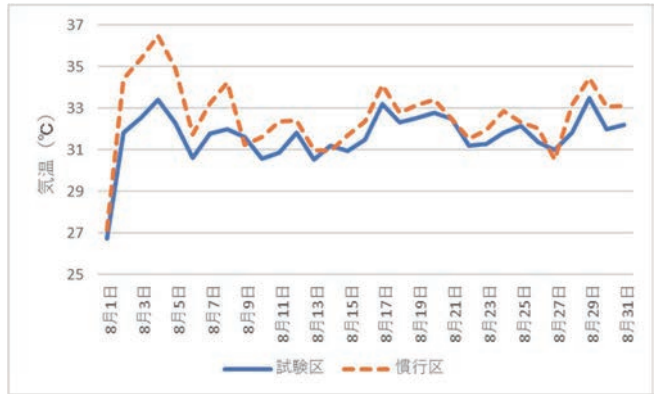


図1 8月のミスト稼働時間帯(8時から17時30分)の平均気温
試験区：簡易ミスト装置を設置したハウス
慣行区：簡易ミスト装置を設置していないハウス

4 今後の課題

農業者相互の情報交換の場を継続的に設けるとともに、個別巡回により、栽培品目の見直しや労務管理、販売管理等の課題の解決を支援していきます。また、年々夏の暑さが厳しくなる傾向にあるため、引き続き暑熱対策の実証等により、栽培管理技術の改善に活用できる情報提供をしていきます。

5 担当者 千葉・習志野グループ ◎楠本あゆ香

6 協力機関

生産振興課、担い手支援課、農林総合研究センター花植木研究室